



○白河市(七月十四日)
*市教育委員会、更生保護女性会も出席
井坂保護観察所長より市長(代理)へ

メッセージ伝達

『第六十一回社会を明るくする運動』

当部会は、社会を明るくする運動や更生保護思想の地域への普及啓発活動等に取り組んでいます。

活動報告 ― 犯罪予防部会 ―



○西郷村(七月一日)
*地区担当保護司全員出席
金澤会長より佐藤正博村長へ



○矢吹町(七月一日)
*地区担当保護司も出席
会長より野崎町長へ



○中島村(七月一日)
*地区担当保護司も出席
会長より小針副村長へ

(2)街頭啓発活動

○白河地区(7月14日)

市内商店街等で更生保護女性会、少年輔導員協議会、少年センター等、各団体も参加、井坂所長も協力



○西郷地区(七月二十六日)
ショッピングセンター
○矢吹地区(七月一日)
JR矢吹駅前
*野崎町長、光南高校生も協力



○泉崎村(七月一日)
*地区担当保護司も出席
会長より久保木村長へ



*郡内小学校での学習会に参加協力
『覚せい剤等薬物乱用防止運動』への協力

キャンペーンカーやビデオ視聴による学習(表郷小学校)



創刊に寄せて

震災の年の「社明」運動

福島保護観察所
所長 井坂 巧

白河地区保護司会の皆様には、更生保護事業各般にわたる一方ならぬご尽力を賜り、紙面をお借りして厚くお礼申し上げます。また、震災により被災された多くの関係者から心からお見舞い申し上げます。この度、保護司会会員相互はもとより、保護司会と地域の方々の「絆」を深める会報が発刊されることは誠に喜ばしく、お祝い申し上げます。

さて、昨年の六十一回「社会を明るくする運動」は、震災により県下の全ての地域において例年どおりの運動を行うことは叶いませんでしたが、地域の実情に応じ、創意工夫に富んだ活動が展開されました。とりわけ、貴地区の運動には二年続けて参加でき、貴地区の取り組みが一際印象に残ります。



白河地区「社明運動」に参加 2011.7

ダルライザーも登場しての法務大臣メッセージ伝達式から市内要所での広報資料の配布等々、保護司の皆様と関係者が心を一つにしての活動は、すっかり市民に定着している感を強くしました。小峰城の石垣を始め、市内各所で震災の爪痕が残る中で、諸先輩が築いてきた「社明」運動を後



会報は代弁者

白河地区保護司OB会
会長 内山重丸

思ってもみなかった大震災から新しい復興の年を迎え、白河地区保護司会では目に見える保護司活動を目指して会報の発行をされますこと、活動の充実と前進に大きく役立つこととお喜び申し上げます。考えて見ますと保護司の活動は世間の目に触れにくいような中で行われている事が多いので、地域や社会から評価されることもなく、なかにはそんな存在を知らない人もいるかと思えます。実は同じ町内や地域の中で犯罪予防活動や罪を犯した人の立ち直りに

退させまいとする関係者の熱意が手に取るように分かりました。本運動の本旨である多くの方々の理解と協力のあり様を体験し、震災後初めて何かしら心地良い風を感じながら帰途に着いたのが鮮明に思

大変な努力と苦勞を重ねながら支えておられますが、これからは会報を通して保護司活動の実態も題材として行政とも地域とも問題を共有して進めることが効果的であり、保護司の志も高まるものと思えます。云うなれば保護司会報は保護司活動の代弁者であると思えます。

い出されます。移動中の社内でのダルライザーとの会話も想い出深いことの一つでした。本会報の創刊を機に、貴会と「社明」運動の益々の充実発展を祈念し、創刊の言葉といたします。

保護司を辞めて五年、十年と経った今でも私たちOBは呼びかけに応じて、全く変らな色あせないかたちで気がねなく集ることができているのは、楽しいことも苦しいことも共に保護司と云う絆で過したよき時間があつたからだと思えます。



OB会親睦旅行 2008.9